【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和5年9月28日(2023.9.28)

【国際公開番号】WO2023/074526
【出願番号】特願2023-544077(P2023-544077)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ 35/02(2006.01)
Ａ０１Ｎ 25/08(2006.01)
Ａ０１Ｐ 21/00(2006.01)
Ａ０１Ｇ 7/06(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ 35/02
Ａ０１Ｎ 25/08
Ａ０１Ｐ 21/00
Ａ０１Ｇ 7/06 Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和5年7月20日(2023.7.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
２００℃以下の沸点または昇華点を有する化合物を１種以上含む有効成分が多孔質材料に担持された担持体を含み、前記多孔質材料の比表面積が２００～１，０００m^2／ｇである、植物の高温耐性誘導剤。
【請求項２】
前記多孔質材料がシリカを含む、請求項１に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項３】
前記シリカが多孔質シリカ、ゼオライトおよびモンモリロナイトから選択される少なくとも一種である、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項４】
前記シリカがシリカゲルである、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項５】
前記シリカの含有量が、前記多孔質材料の総質量に対し９５～１００質量％である、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項６】
前記シリカの含有量が、前記多孔質材料の総質量に対し９５～１００質量％である、請求項３に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項７】
前記シリカの含有量が、前記多孔質材料の総質量に対し９５～１００質量％である、請求項４に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項８】
前記化合物が不飽和カルボニル化合物である、請求項１～７のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項９】
前記化合物が下記式１で表される化合物である、請求項１～７のいずれか一項に記載の高

温耐性誘導剤。
$R^1-CH=CH-C(=O)-R^2$ ・・・式１
ただし、R^1は、水素原子、ヒドロキシ基または炭素数１～９のアルキル基であり、R^2は、水素原子または炭素数１～５のアルキル基である。
【請求項１０】
前記化合物が２－ヘキセナール又は３－ヘプテン－２－オンである、請求項１～７のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項１１】
請求項１～７のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１２】
請求項８に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１３】
請求項９に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１４】
請求項１０に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１５】
請求項１～７のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、前記容器を気孔を有する植物の周辺の地面に設置する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１６】
請求項８に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、前記容器を気孔を有する植物の周辺の地面に設置する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１７】
請求項９に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、前記容器を気孔を有する植物の周辺の地面に設置する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１８】
請求項１０に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、前記容器を気孔を有する植物の周辺の地面に設置する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１９】
請求項１～７のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、植物や支持体に取り付ける、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項２０】
請求項８に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、植物や支持体に取り付ける、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項２１】
請求項９に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、植物や支持体に取り付ける、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項２２】
請求項１０に記載の高温耐性誘導剤を、開口を有する容器に収容して、植物や支持体に取り付ける、植物の高温耐性誘導方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
以下、実施例を挙げて本発明を具体的に説明するが、本発明は以下の実施例の記載に限定されるものではない。「％」は「質量％」を示す。
例１～４、６～１０、１３は、実施例であり、例５は、参考例であり、例１１～１２、１４～１５は、比較例である。